

平成23年度 薩摩川内市事務事業評価表

1 事務事業の位置付け(Plan)				内部評価者名 課長・室長・支所長	橋野 巧
事務事業名	子育てサロン事業			担当者	天達 哲志
所管部課名	教育部 社会教育課			事業の根拠 (根拠法令)	
事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input type="checkbox"/> 施設管理 <input type="checkbox"/> 内部管理				
総合計画上の 位置づけ	施策の 基本方針	政策 (章)	健康で共に支え合うまちづくり	主要施策 (節)	子育て支援・児童福祉の充実
				施策 (項)	子育て支援体制の整備及び児童福祉の充実
予算科目等	会計	一般会計		款	教育費
	項	社会教育費		目	社会教育総務費
	事項	社会教育振興費		細事項	家庭教育事業費

事業の概要

中央公民館内の和室を開放して、子育てに不安を抱える親が相互に情報交換を行い、気軽に子育てサポーターへ相談できる「子育てサロン」を設置。  
 対象者は、子育てについて悩みを持つ親で、子ども同伴での参加条件等はない。  
 毎週水曜日(午前10時から正午)に開設。子育てサポーター5～6名が企画運営している。

2 事務事業の実施 (Do)

事業の内容	対象 (誰を、何を対象とする事業か)	市内の子育てや子どもとの関わりに不安や悩みを持つ親、		事業開始年度		平成17年度		
	手段 (市がどのような活動をするか)	子育てについて不安や悩み等を持つ親が、気軽に相談でき、アドバイスが受けられる「子育てサロン」の事業を展開する。また、相談役となる「子育てサポーター」の養成研修を実施する。	活動指標 (市として何をを行うか?)	指標名	子育てサロン事業の広報・周知活動			
				最終目標値	子育てサポーター養成講座の実施			
	意図 (どのような目的で事業を行うか)	子育てに対する不安や悩み、また関わり方に対して、子育てサポーターが極め細やかなアドバイス等を行い、同じ不安等を共有し合う場を提供し、子どもを持つ親の負担を軽減し、安心して子育てができるよう支援する。	成果指標 (活動をした上で、目標となる成果をどのように設定するか?)	最終目標値	3回/年			
最終年度				年6回の講座				
コスト・指標の推移	事業費	国・県支出金	千円	指標名	参加延べ世帯の増加			
		その他		最終目標値	子育てサポーター単年度登録数			
		一般財源		最終目標値	500世帯			
		合計(A)		最終年度	20人			
	従事職員数	人	0.20	最終年度	継続			
	人件費(B)	千円	1,600	平成21年度 決算	平成22年度 決算	平成23年度 (見込み)	平成24年度 (見込み)	平成25年度 (見込み)
	従事嘱託員数	人	0.20	532	514	502	502	502
	人件費(C)	千円	1,600	532	514	502	502	502
	トータルコスト	千円	3,732	3,732	3,714	3,702	3,702	3,702
	活動指標の推移	回/年	2回/年	2回/年	3回/年	3回/年	3回/年	3回/年
成果指標の推移	回/年	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	
	人	450	478	480	490	500		
	人	13	13	14	15	16		

事業費の主な支出内容(事業内容がわかるよう、支出する主なものを記入してください)

- ・子育てサポーター活動謝金 397千円
- ・子育てサポーター養成講座講師謝金 42千円

3 事業の視点別評価 (Check)	
妥当性	<b>対象・手段の妥当性</b> <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 改善の余地はある <input type="checkbox"/> 妥当でない (上記選択の理由) 子育てする母親から悩み相談等を受け、母親の精神的な部分を少しでも軽減してあげる場所として、子育てサロンの実施と広報・周知を図る必要がある。 また、子育てサポーター養成講座を実施することで、受講者を子育てサロンのサポーターとして、講座で学んだ知識等を活かしていただくことができる。
	<b>市が関与すべき妥当性</b> <input type="checkbox"/> 市で実施すべき <input checked="" type="checkbox"/> 民間でも可能 <input type="checkbox"/> 民間で実施すべき (上記選択の理由) 子育てに対して市は関与すべきと思われるが、子育て世代は様々であり、民間(社会福祉協議会、ファミリー・サポートセンター、子育て支援センター等)でも類似する支援活動を実施している。 母親を育てる家庭教育の観点から、子育ての不安・悩みに対する解決策はいろいろな方法が考えられるが、類似する事業の中から母親が自ら行きやすい場所を選択し、その中の一つとしてサロン活動も必要な事業である。
効率性	<b>事業費の削減余地</b> <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> ある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地はない (上記選択の理由) 子育てサポーター養成講座を毎年実施し、その受講者の中から子育てサロンのサポーターとして毎年度登録していただいている。サポーター活動は予定表に基づき計画的な運営を図っている。また、参加者数に応じてサポーター数の調整も行っている。
	<b>人件費の削減余地</b> <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> ある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地はない (上記選択の理由) 未就学の子ども連れでの参加が多く目が離せないため、登録者を多く確保することが望ましい。 ただ、より多くのサポーターの企画運営で、効率的な活動、様々な相談への対応が可能と考えられるが、ボランティア(無報酬)活動での対応が実施できれば、ある程度の経費削減に繋がる。(他事業の動向も考慮する必要がある。)
有効性	<b>成果の達成度</b> <input type="checkbox"/> かなり高い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い (上記選択の理由) 子育て世代が関心を持ち参加世帯が増加することで、子育て世帯のネットワーク形成にも繋がり、今以上の事業周知が図られる。子育てサロン参加者の中で、今後、養成講座及びサポーター側の立場で活動することも考えられる。
	<b>成果の向上余地</b> <input type="checkbox"/> かなりある <input checked="" type="checkbox"/> ある程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない (上記選択の理由) 単年度登録制度を採用することにより、養成講座を繰り返し受けていただくことで、サポーター資質の向上が図られる。
4 事業の改革・改善の方向性 (Action)	
内部評価(一次)	<b>今後の改革の方向性</b> <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの上で継続 <input type="checkbox"/> 今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合 <input checked="" type="checkbox"/> 手段の改善 <input type="checkbox"/> 移管 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 上記方向の理由 子育てに不安や悩みを持つ親は、様々な背景を抱え、また生育歴も千差万別である。支援の窓口として様々な選択肢があることが、充実した子育て支援体制の整備となる。 市民大学と子育てサポーター養成講座が連携することで、高い効果が見込まれる。
	<b>改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画</b> 様々な機関で同様な事業を展開しており、情報交換等を行いながら、対象地域・回数・活動内容などを工夫し特色を持たせる。 子育てサロンのサポーターは、養成講座を繰り返し受講していただき資質の向上が図られる。 また、養成する側も講座を充実させるための向上が図られる。
内部評価(二次)	<b>評価者名</b> _____ <b>内部評価結果</b> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い
	<b>今後の改革の方向性</b> <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの上で継続 <input type="checkbox"/> 今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 他の事業と統合 <input type="checkbox"/> 手段の改善 <input type="checkbox"/> 移管 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 上記の改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画(内部評価一次と違う部分) ・類似事業との統合化、若しくは連携の必要性の検討 ・事業目的と手段の検証